

0820 | ファッションデザイン

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

牧野良三教授、天野勝教授、古川巳代子講師、山本篤子講師

授業の概要と目標

本学通学課程のファッションデザインコースでは、ファッションを衣服の形態や素材の研究だけに止どめず、アートやコミュニケーションなど隣接する領域との融合を目指す創作に力を入れた授業が組まれている。美術大学ならではの、身体をめぐる芸術表現として「ファッション」を超える作品を創作することで、より豊かな発想力と柔軟な感性を鍛えることを目的としている。

この授業では、面接授業で衣服をメディアとした造形物「身につけるアート」を制作するが、この制作を通して、ファッションを単なる身体装飾や一過性のとらえどころのない現象として見るのではなく、新たな視点で捉えその可能性を再発見するとともに奥行のある領域であることを再認識してもらえればと思う。

課題の概要

○通信授業課題春・冬（素材研究）

衣服制作には、素材研究が欠かせない。面接授業でのスカーフ制作に必要な素材とは、材料の布に限らず、色、形、質感や機能も含む制作しようとするスカーフすべてに関わる事を意味している。面接授業でのスカーフ制作に必要なサンプラーを作成し、春期スクーリング初日（6月23日）もしくは冬期スクーリング初日（11月24日）に持参、提出する。

※提出期日厳守のこと。提出が遅れた場合、スクーリングを受講できません。

○面接授業課題春・冬（素材研究）

通信授業でつくったスケッチブックをベースに、自由な発想でオブジェ感覚のスカーフ「身につけるアート」を制作する。面接授業の前に授業時間内に完成可能なデザインのラフ案および素材をいくつか準備しておく事が望まれる。尚、材料は布に限らない。制作したスカーフを身につけて発表する。

○通信授業課題夏（ベスト制作）

面接授業での作品制作に必要な各自の体型に合わせたベストの型紙を作る。衣服制作には、型紙（パターン）が欠かせない。型紙とは制作物の実物大の平面製図を切り抜いた紙のことをいい、英語ではパターンという。これを基に実制作の布を裁断、縫製する。ベストとは袖なしの胴衣のことで、日本語ではチョッキともいう。また英国ではウエストコート [Waistcoat] という。

※提出期日（6月20日）厳守のこと。提出が遅れた場合、スクーリングを受講できません。

○面接授業課題夏（ベスト制作）

通信授業課題で作った型紙をベースに、自由な発想でオブジェ感覚のベスト「身につけるアート」を制作する。学習指導書の参考作品を見て、面接授業の前にラフイメージをいくつか考察することが望まれる。

授業計画

通信授業



面接授業

[通信授業]

『ファッションデザイン学習指導書』による。

通信授業課題春・冬、または、通信授業課題夏のいずれかを選択する。

通信授業課題春・冬を選択した場合は、春期スクーリングもしくは冬期スクーリング、通信授業課題夏を選択した場合は、夏期スクーリングのみの受講となる。

選択課題	提出方法と提出期限	受講可能なスクーリング
通信授業課題春・冬	スクーリング初日に持参 ※事前提出不可	春期スクーリングもしくは冬期スクーリング
通信授業課題夏	6月20日までに提出 ※期日厳守	夏期スクーリング

[面接授業]

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第2日 午前：制作 午後：制作

第3日 午前：制作 午後：講評

成績評価の方法

通信授業と面接授業の制作過程及び制作結果を総合的に評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（夏期スクーリング 20名）。

教材等

教科書：小池一子編『Fashion—多面体としてのファッション』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

学習指導書：『ファッションデザイン 平成29年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）